

## 25年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

### 1. 本園の教育目標

“人間形成の土台づくり”が、学校法人谷岡学園教育理念“世に役立つ人物の養成”へとつながるように、子ども達の遊びや生活を通じた教育活動を行います。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

### 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園児の入園から就学前までを見通し、教育課程を基に指導計画の充実に向け、教職員間で話し合う場を多く設けるなど、教育内容の改善と個々の資質向上に主体的に取り組む。
- ・生活や遊びの中で建学の理念、教育要領が生きていることを説明し、小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育の実践と発信をする。
- ・保護者との連携を通して、子ども達の基本的な生活習慣を推奨し、教育効果を高める。
- ・地域や系列校との連携策について検討し、日頃接することの少ない年代の方々との交流を深めることで園児の生活の幅を広げ、今後の成長に繋げていく。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を求め、子ども達の実態に即したねらいに基づき、学年毎に内容を検討することができた。
建学の理念、教育要領、教育課程、子どもの実態等を基に指導計画を作成する。	教育目標、建学の理念と幼稚園教育要領の接点を基に、各項目に対する指導計画を学年ごとに作成し実施した。 また、子ども達の実態を踏まえて、日々各学年の担当教員が連携し、意見交換をしながら、学びや育ちを保証できる指導計画となるよう、学期毎に加筆、訂正を行い、実践に繋がるように充実を図った。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させる研究会等へ積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上に努める。	教職員間で園内研修・情報交換を行いながら、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育を実践するよう心がけた。 各行事の打合せ及び反省会や、職員室で日々先輩・後輩の意見に耳を傾けるなど、お互いの考えを出し合い、議論する機会を持つことができた。 また、外部団体主催の研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、毎日の保育の参考となる情報を共有できよう心がけた。

評価項目	取組状況
園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。	<p>保護者との懇談や参観、子育てサロン（年5回）、学年親睦会などを定期的実施して子ども達の学びや育ちを伝え、保護者の思いや考えを受け止め、丁寧に対応することを心がけた。</p> <p>なお、公式WEBサイトの運営は、保護者会広報部とも連携し、個人情報の管理に配慮しながら、在園児の保護者だけでなく、一般の方にも園の教育活動に興味を持っていただけるように工夫し、日常の様子、行事や園外保育の様子、保護者間で実施されたイベントの報告等、タイムリーに情報を発信した。</p>
安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）	<p>園内、園庭の環境整備のため、定期的に遊具の点検を実施し、危険な個所がないかどうか確認した。園庭においては、築山の再整備、池の遊具（丸太）補修、ログハウスの再塗装を行い、園児が園内で安全に過ごせるように配慮した。</p> <p>なお、新入園児用の机・椅子を点検し、劣化が激しいものについては入れ替えた。また、園児一人ひとりが個人の持ち物を整理整頓しやすいように個人ロッカーに仕切り板を設置した。</p>
地域・系列校との連携	<p>園児の成長の場を創り出すため、次のとおり実施した。</p> <p>地域との連携については、幼稚園行事（夕涼み会、敬老会、商幼祭）などを通じて、地域住民の方に対し、園児が思いやりの気持ちを持つことができるよう意識をつけるとともに、幼稚園の取組み内容、行事等への理解を得るよう努めた。なお、一部行事については、予想を超える参加人数であったため、安全に配慮した開催場所を選定するべく、今後検討していく。</p> <p>系列校との連携では、学園のスケールメリットを活かし、25年度は6月に神戸芸術工科大学に親子遠足（陶芸体験等）に出かけ、自然環境を満喫した。大阪商業大学とは、11月の大学祭の際に年長組の制作した絵画を展示、大阪女子短期大学幼児教育科とは、引き続き幼児教育を学ぶ学生と園児との交流、保育実習を通じて短大生が直接園児と接する機会を設け、実践的な保育を体験することができた。幼稚園とは違う環境で保育を実施し、担任以外の保育者と接することにより、園児の五感を刺激することにも繋がっている。なお、大阪商業大学高等学校とは隣地にあることを活かした交流として、運動会への参加、園児の意見を取り</p>

評価項目	取組状況
地域・系列校との連携	入れたおもちゃ（木製パズル）の制作を継続して実施した。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が学校評価の主旨を理解し、各自が適切に自己点検、自己評価に取り組む必要性を強く感じた。また、多様な子供に対応するため、教職員の資質向上が求められており、継続して取り組むべき課題として一層認識した。</li> <li>・家庭と協力して教育をしていくことが賢い子どもを育てる秘訣であることを認識し、保護者との連携を密にすることを心がけた。幼稚園から積極的に情報発信をする体制を整えたことにより、保護者だけでなく、学外者にも幼稚園の教育内容を理解してもらえたと感じている。</li> <li>・五感を感じることができる保育を実践することにより、子どもの成長過程に良い刺激を与えることができたと思われる。</li> </ul>
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者ニーズの把握と建設的なコミュニケーションのあり方を検討する	<p>建学の理念に基づいた教育に十分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を、保護者との懇談会や保育参観、担任等を通じて把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎とし、そのことを発信して理解を求め、教育の内容を深める。</p> <p>また、在園児保護者を対象とした保育参観を定期的で開催、特に父親など男性が参加できる行事を企画し、日常の保育の様子を保護者に公開する機会を設ける。</p>
教育力向上への取り組み	<p>見える教育と見えない教育をあきらかにし、園内研修の強化と外部研修会への積極的な参加等により、教員一人ひとりの教育力のレベルアップと笑顔が発揮できる取り組みを行う。</p> <p>毎年度末に実施している全日私幼研究機構が作成した自己評価に基づき、各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックすることにより、個人の問題点があれば幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かすようにする。</p>
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	<p>25年度に確認した園内の避難経路について再度点検するとともに、保育者が各自の役割分担を自覚して学期毎に実施する避難訓練に臨む。</p> <p>なお、地元の布施警察署（生活安全課）との連携の中での防犯訓練を継続して実施し、訓練回数を重ねる中で様々な状況を想定する。また、東大阪西消防署へは年1回園児が訪問し、火災予防に対する心構えや注意事項などについて話を聞く機会を設けており、引き続きより良い防災・防犯体制が構築できるようにする。</p>

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	<p>また、法人本部危機管理担当参与とも連携し、園児が安心した幼稚園生活が送れるよう、大学警備員との連携も図りながら、園周辺の定期的な巡回指導、危険箇所を把握するなど、幼稚園の教職員と情報を共有するよう努める。</p> <p>震災や津波、ゲリラ豪雨等、自然災害に対する対応、避難経路の確保等について、安全管理マニュアルへの記載方法を検討する。</p>
特別支援教育の充実	<p>近年増加している支援を要する子ども達へのアプローチについて専門家の話を聞くなど、継続的に研修内容を実践に結びつける努力をする必要がある。このため、引き続きキンダーカウンセラー1名を配置し、専門家と一緒に援助のあり方を検討したり、保護者とも連携するなどして、一人ひとりに合った対応ができるようにしていく。</p>
地域・系列校との連携	<p>幼稚園の取組み内容、行事等への理解を得るべく、幼稚園行事などを通じて積極的に働きかけ、相互理解を深める。また、系列校との連携策として、26年度は大阪商業大学堺高等学校を訪問し、収穫体験を通じて食物（生き物）の大切さを学ぶとともに、大阪商業大学、大阪女子短期大学、大阪商業大学高等学校との連携も継続して実施する。</p>
子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「子ども・子育て支援制度」に基づき検討されている「認定子ども園構想」については、谷岡学園の教育理念に基づき、子ども達の学びや育ちを保証する幼児教育を展開するべく、行政（東大阪市等）の方針を把握し、状況を見極めながら、対応を検討していく。</p>

## 6. 学校関係者よりの意見

- ・ 限りある敷地の中で多くの事が学べるように工夫された環境である。自然の中で土に触れたり、緑を見たりすることは、子どもの成長過程において、特に人格形成等に良い影響を与えらると思う。
- ・ 園庭の池や遊具（ブランコ）は一部危険であると感じることもあるが、自分自身の身の安全を守ろうとする意識を持った子どもに育つのではないかと思う。
- ・ 子ども達が毎日安全に生活できるよう、遊具の点検・整備、安全対策についての打合せ等を定期的に行う必要がある。
- ・ クラス担任以外の先生方も園児の名前を覚えていてくれるため安心感がある。子どもが安心して生活を送れるように配慮が行き届いている。
- ・ おやつ（カンパン、昆布、園庭のくだもの、季節の野菜等）に工夫が見られ、子ども達も喜んでいと感じている。
- ・ 近年幼稚園の行事の際、「マナー」や「ルール」が守れない保護者が増えているように感じられる。幼稚園主導で保護者に指導して欲しい。
- ・ 駐輪場、駐車場の整備について検討して欲しい。

- ・子どものリズムを大切にしつつ、子ども達の育ちを確保していることに感銘を受けた。ともすれば保育者の価値観が優先された結果、子ども達の心に「やらされ感」や「不本意感」が残り、そのために子ども達にとって幼稚園自体が楽しくないものになる園が多い中で、慌ててしまう状況を作り出さず、子ども達自身がじっくりと考え、自分たちの考えを実現できる環境を確保されていること、とりわけ全教職員が建学の理念を共有し、あらゆる場面で適切な対応をしているところが優れていると考える。
- ・言葉を中心に据えた保育が実践されており、成果も上がっていると言えるが、更に情報の提示や保育の際に情報を視覚化（ビジュアライズ）して提示されると良い。特に年少児への言葉がけに併用すると具体的イメージが湧き、そのイメージが言葉として定着していくと考える。
- ・活気のある先生、貫禄のある先生も多いが、子どもの年齢に応じて、子どもの立場や気持ちになって声をかける工夫がより一層必要であると感じる。
- ・年齢にふさわしい育ちや学びを見据えて研究し、今後も実践に繋げて欲しい。

以上のことを具現化するべく、各事業を推進する。

## 7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。